

子育て支援施設におけるプレイルームの面積と床仕上げ

—床仕上げとコーナー配置の異なる子育て支援施設の使われ方の比較研究 その1—

子育て支援
コーナー配置

空間構成
乳幼児

床仕上げ

正会員 ○岡崎 紗矢*
正会員 伊藤 優里**
正会員 山本 幸子***
正会員 中園 真人****

1. 序論

2007年度より「地域子育て支援事業」が開始され、0～3歳児の過ごす空間として一般的な保育所に加え、公共施設の空きスペースや空き民家等といった多様な建物形式による子育て支援施設の設置が進められている。室内空間は、実施要綱により「概ね10組の子育て親子が一度に利用しても差し支えない程度の広さを確保すること」とし、室内設備は「授乳コーナー、流し台、ベビーベッド、遊具その他乳幼児を連れて利用しても差し支えないような設備を有すること」との規定はあるが、プレイルーム^{注1)}の面積や床仕上げは施設によって異なる。また、子育て支援施設では利用人数が時間帯や日によって異なり、発達段階の異なる乳幼児と親が同一空間で過ごすことが保育所との違いであり、各施設の運営方針やスタッフの経験に基づいて空間が整備されているのが現状である。

そこで本論では、複数の施設から傾向を把握するために山口県内の全子育て支援施設を対象とし、建物形式・規模と床仕上げの関係を整理して、実際の事例を基にプレイルーム内の家具配置を示すことで床仕上げによるコーナー設定の違いを明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

調査は、2014年4月時点で山口県内に設置されていた子育て支援施設140箇所を対象に、まず郵送にて施設の建物形式・規模・床仕上げ等に関するアンケート調査を実施し、102施設から回答を得た。次にアンケート結果を基に、プレイルーム面積と床仕上げに特徴のみられた15施設を選定し、家具配置のスケッチ及び実測調査、遊具・玩具等の種類の記録、施設の内部空間等の写真撮影を行った。

調査期間^{注2)}は2010年5月～2011年1月、2012年3月、2014年1月、2014年6月、2014年10月～2015年12月で、アンケートの有効回収率は72.9%である。

3. 建物の形式・規模と床仕上げ

3.1 建物の形式・規模

アンケート調査で回答のあった102施設について、建

表1 建物形式とプレイルーム面積

プレイルーム 面積	建物形式						合計
	保育所	独立住宅	福祉施設	センター	幼稚園	その他	
25㎡以下	3						3
25～50㎡	14	4	1		1	1	21
50～75㎡	18	2	2	2	2	1	27
75～100㎡	20	1	1				22
100㎡以上	17	2	2	4	1	3	29
合計	72	9	6	6	4	5	102

注1) 表中の数字は施設数を示す。

注2) センター: 総合支所3施設、児童センター: 2施設、市民センター1施設を含む。

注3) その他: 病院・旧公民館・商業施設・旧図書館・旧保育所、各1施設を含む。

表2 保育所設置型の利用場所とプレイルーム面積

プレイルーム 面積	利用空間						合計
	保育室	遊戯室		専用室	別棟	不明	
		全体	一角				
25㎡以下					1	2	3
25～50㎡	7	1		2	2	2	14
50～75㎡	4	3	2	3	3	3	18
75～100㎡	7		2	3	3	5	20
100㎡以上	2	8	3	2	1	1	17
合計	20	12	7	10	10	13	72

注1) 表中の数字は施設数を示す。

注2) 「遊戯室の一角」と回答があった施設については、どの程度の広さを利用しているかは不明であったため、遊戯室全体をプレイルームとして面積を示している。

物形式とプレイルーム面積を表1に示す。建物は保育所活用型が72施設と最も多く、全体の約7割を占める。その他には独立住宅: 9施設、福祉施設・市民センター等: 6施設、幼稚園: 4施設等がみられた。プレイルーム面積は、25㎡以下から100㎡以上と幅広く、保育所活用型では保育室や遊戯室といった既存空間の活用が20施設前後みられる他、子育て支援専用の部室や別棟の設置もみられた(表2)。特に遊戯室を利用する場合には、遊戯室全体利用・一角利用も併せて計11施設において100㎡以上と広い空間が確保されている。そして、独立住宅活用型ではプレイルーム面積が100㎡以上の施設もみられるものの、住宅には浴室や台所等の設備空間があり、プレイルームとして設定できる空間に限りがあるため、25～50㎡が最も多くなっていると考えられる。また、福祉施設やセンターに併設された施設では、主に50㎡以上のプレイルームが確保されており、特にセンター併設型では100㎡以上が4施設と最も多い。

Floor Space and Material in the Playroom of Childcare Support Facility

Comparative Study of Usage in Childcare Support Facility of Different Floor Material and Corner Layout (Part 1)

OKAZAKI Saya, ITO Yuri, YAMAMOTO Sachiko, NAKAZONO Mahito

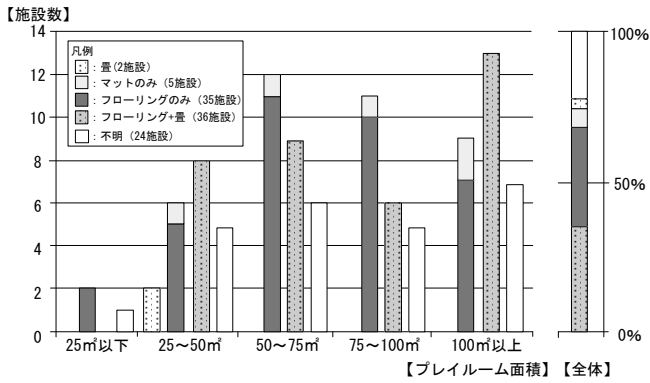


図1 プレイルームの面積と床仕上げ

3.2 プレイルーム面積と床仕上げ

プレイルームの面積と床仕上げの関係を図1に示す。アンケート調査で回答のあった102施設のうち、床仕上げが把握できた77施設では、①畳のみ:2施設、②マットのみ:5施設、③フローリングのみ:35施設、④フローリング+畳(畳マットも含む):36施設の4つの床仕上げタイプを抽出できた。プレイルーム面積毎に床仕上げのタイプをみると、25~50㎡の施設では、4タイプすべてがみられ、フローリングと畳の設置が8施設と最も多い。50~75㎡、75~100㎡の施設における床仕上げは類似しており、フローリングのみの設置が各10施設前後みられた。そして、100㎡以上の施設ではフローリングと畳の設置が多くなり、13施設みられた。また、マットの設置は25㎡以上の区分において1,2施設ずつみられた。そして、畳を設置している施設はタイプ1,4を併せて38施設と全体の約5割を占め、子育て支援施設において畳が有効に活用されていることがわかる。

4. 床仕上げの異なる事例の分析

3.2より、プレイルームの床仕上げとして③フローリングのみ、④フローリング+畳の2つが主なタイプであることがわかった。そこで、各タイプの施設について、その床仕上げとなった要因を明らかにするために、畳の設置・未設置理由を示した上でそれぞれ事例を抽出し、プレイルーム内のコーナー配置を示す。

4.1 フローリングのみの施設

床仕上げがフローリングのみの35施設において、畳を設置していない理由を図2に示す。理由のうち、「マット等で畳の代用を行っているため」との回答が24施設と7割近くを占める。実際に常時マットを使用している施設は29施設あり、必要に応じて設置する施設もみられることから、マットが有効に活用されていることがわかる(図3)。また、「施設の面積が狭いため」との回答も6施設みられ、プレイルーム面積が床仕上げに大きく影響していると考えられる。

次に事例を図4に示す。事例1は保育所の新設に伴い、

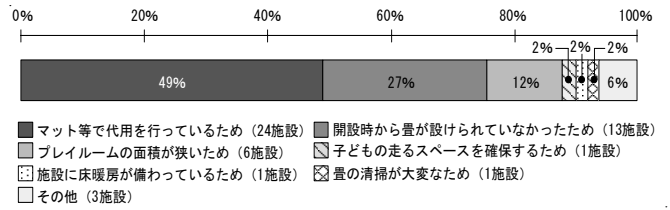


図2 複数回答による畳未設置理由 (フローリングのみ)

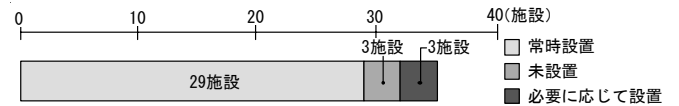


図3 マット使用状況 (フローリングのみ)

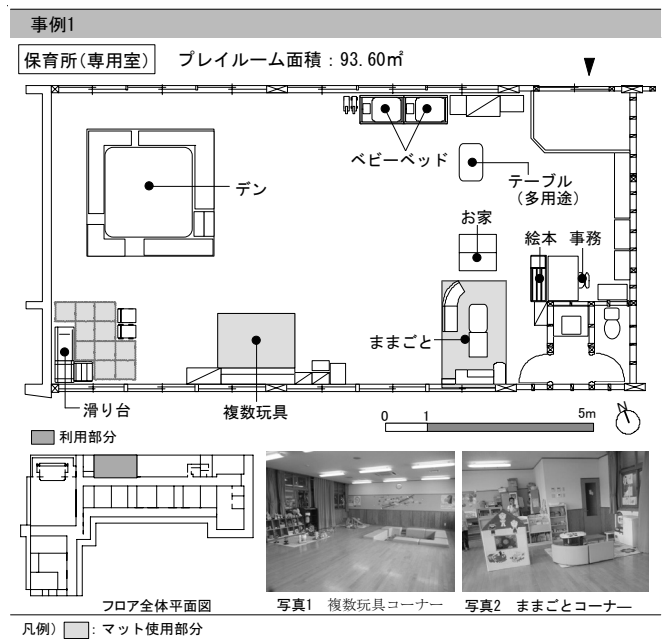
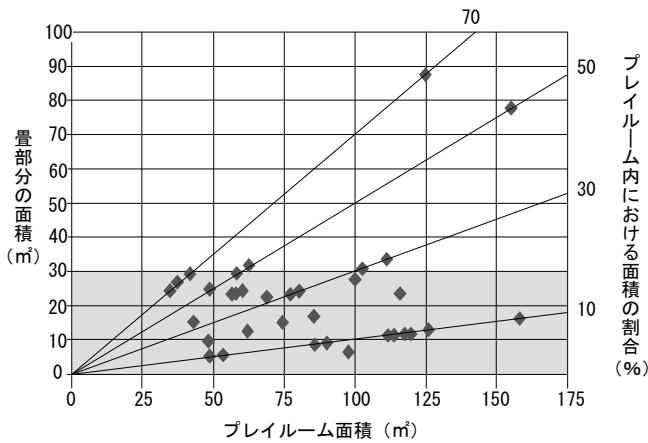


図4 フローリングのみの事例

専用室として設置されたもので、プレイルーム面積は93.60㎡である。コーナーは主に壁際に点在しており、子どもが走り回ることでできるようにプレイルーム中央には広いオープンスペースが確保されている。マットは、「滑り台」「複数玩具」「ままごと」コーナーの3箇所ですべて常時使用されており、滑り台使用時の安全の確保、乳児のほふくの場の設定、コーナーの明確な区分を目的としている。

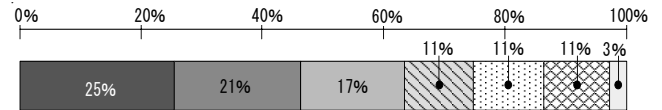
4.2 フローリングと畳の施設

床仕上げがフローリングと畳で2区分されている36施設においては、まずプレイルーム面積と畳部分の面積の関係を図5に示す。面積が把握できた35施設のうち、9割近くの30施設において畳部分の面積は30㎡以下で、70㎡以上は2施設のみであった。そして、プレイルーム内における畳部分の面積の割合をみると、0~10%:11施設、10~30%:12施設、30~50%:7施設、50%以上:5施設



注) プレイールームをフローリングと畳で構成していた36例中、畳部分の面積が把握できた35例を示す。

図5 プレイールームと畳部分の面積 (フローリング+畳)



- 利用者が静かに過ごせる場所を確保するため (18施設)
- ほふくの場を確保するため (15施設)
- 乳幼児の安全を確保するため (12施設)
- コーナーを明確に区分するため (8施設)
- フローリングが冷えるため (8施設)
- 開設時から畳が設けられていたため (8施設)
- その他 (2施設)

図6 複数回答による畳の設置理由 (フローリング+畳)

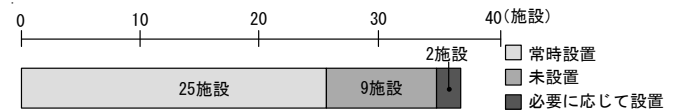


図7 マット使用状況 (フローリング+畳)

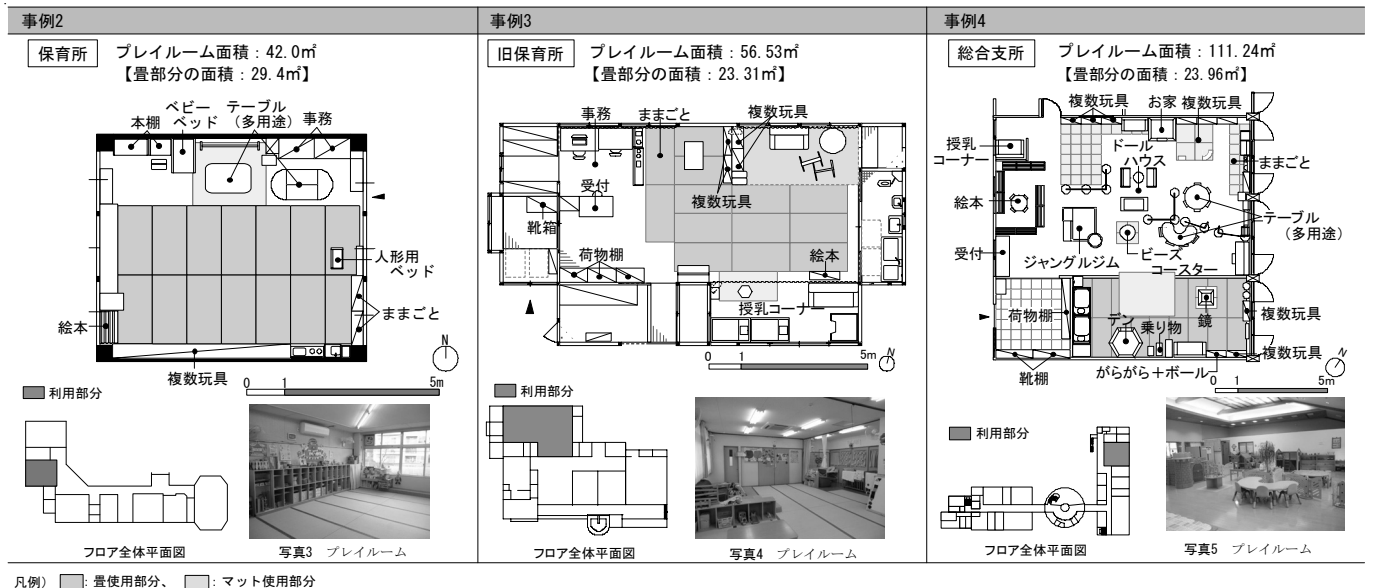


図8 フローリング+畳の事例

設で、プレイールーム面積の半分程度を畳スペースとしている施設が 30 施設と半数以上を占めていた。また、畳スペースの面積は、必ずしもプレイールーム面積に比例しておらず、150 m²以上の広さを有する施設でも、畳スペースの割合が 1 割程度の施設もみられ、施設によって配置も様々であると考えられる。

次に、畳を設置している理由を図 6 に示す。理由のうち、「利用者が静かに過ごせる場所を確保するため」との回答が 18 施設と最も多く、全体の半数を占める。次いで、「ほふくの場を確保するため」「乳幼児の安全を確保するため」との回答が多く、乳幼児の過ごす空間を明確に区分するために畳を設置していることがわかる。また、「フローリングが冷えるため」との回答も 8 施設あり、座位で過ごすことの多い乳幼児と親への配慮がみられた。そして、フローリングのみの施設と同様に、マットも 36 施設中 25 施設が常時設置、2 施設が必要に応じて設置して

おり、畳とマットによって空間が区分されていることがわかる (図 7)。

そして、事例を図 8 に示す。事例 2 は、保育所に設置された施設で保育室の一室を利用している (図 8-左)。プレイールーム面積は 42.0 m²で、そのうち畳部分の面積は 29.4 m²とプレイールーム面積の 7 割を占める。畳スペースはプレイールーム南側に設置されており、ロッカーを利用して玩具が壁際に配置されている。フローリングスペースには机が設置されており、スタッフの事務作業や利用者が工作等を行う場となっている。

事例 3 は、旧保育所の 0-1 歳児室であった部屋を利用しており、プレイールーム 56.53 m²のうち、畳部分は 23.31 m²とプレイールーム面積の 4 割を占める (図 8-中央)。プレイールームの中央部分に畳スペースが設えられており、その上に「ままごと」「絵本」「複数玩具」コーナーが設定され、広いオープンスペースが中央に確保されている。

そして、畳に囲まれた北側のスペースにはマットが敷かれ、「複数玩具」コーナーが設置されている。また、遊ぶコーナー以外にもプレイルーム南側の奥まったフローリングスペースにはベビーベッド・おむつ交換台・ソファが設置された「授乳」コーナーが設けられており、カーテンによって遊ぶ空間と仕切ることも可能である。

事例 4 は、総合支所 2 階の会議室を改修して設置された施設で、改修時にフローリングスペースと畳スペースを設けている（図 8-右）。プレイルーム面積は 111.24 m² で、そのうち畳スペースの面積は 23.96 m² でプレイルーム面積の 2 割を占めている。フローリングスペースでは、マットが 4 箇所で使用されており、「複数玩具」「ままごと」「ビーズコースター」コーナーの場所を明確に区分している。また、「ジャングルジム」や「ドールハウス」といった大型遊具や、多用途で使用可能なテーブルも設置されており、オープンスペースは設けられていない。さらに、「絵本」コーナーは、マットは使用されていないものの、本棚で囲うことによって場所を区分している。そして、畳スペースは、プレイルーム南側一面に設けられており、デンや乗り物、「複数玩具」コーナーが壁際に配置され、中央にはオープンスペースがとられている。

5. 結論

本論で得られた知見は以下の通りである。

- 1) 山口県内の子育て支援施設 102 箇所の建物形式としては、保育所、独立住宅、福祉施設、センター、幼稚園が主にみられ、そのうち 72 施設が保育所設置であった。また、プレイルーム面積は建物形式によって大きな差がみられ、保育所の遊戯室を利用する場合や、福祉施設・センター併設型では 100 m²以上の広さが確保されていた。
- 2) プレイルームの床仕上げを把握できた 77 施設では、畳、マット、フローリングを単独で使用している施設に加え、フローリングと畳の 2 種類を設置している施設の 4 タイプがみられた。そのうち、畳を使用している施設は 38 施設と約 5 割を占めており、子育て支援の場において畳が有効であることがわかる。また、プレイルーム面積が 50~100 m²の施設ではフローリングのみ、100 m²以上の施設ではフローリングと畳を設置した施設が多くみられた。
- 3) プレイルームの床仕上げとしてフローリングのみを用いた施設では、畳を設けない理由としてマット等で畳の代用を行っているという施設が多くみられ、実際にマットを使用している施設は 35 施設のうち 29 施設

と約 8 割を占めている。そしてマットの使用目的としては、畳の代用として乳児のほふくの場の設定やコーナーの明確な区分、大型遊具使用時の安全確保等が挙げられる。また、プレイルーム面積が狭いため畳のスペースが十分に確保出来ないため畳を設けられない施設もみられた。

- 4) プレイルームの床仕上げがフローリングと畳の 2 種類を用いた施設において、プレイルーム内における畳部分の面積は、プレイルームの広さに関係なく 30 m²以下の施設が 36 施設のうち 30 施設と約 8 割を占めていた。また、プレイルーム面積と畳部分の面積の比率は 50%以下が一般的である。畳を設ける理由としては、主に絵本などの静的遊びや乳児が過ごすための場の確保が挙げられる。そして、畳に加え、マットの使用も 27 施設と約 7 割でみられ、フローリングのみの施設と同様に、フローリングスペースでのコーナーの明確な区分や大型遊具利用時の安全の確保を目的として使用されていた。

尚、本研究は平成 26 年度日本建築学会中国支部奨励研究助成を受けたものである

注釈

- 注 1) 「プレイルーム」は、施設の開所時間内において利用者が遊びや交流を目的として過ごす場所を示しており、別室として設けられている事務室や便所等は除く。
- 注 2) 調査期間は 2010 年から 2015 年の 6 年間にわたるが、これは当研究室で子育て支援施設研究を開始してから現在までに調査した全例を対象としており、施設が設置されている建物形式は保育所を始めとして、独立住宅・福祉施設・市民センター等の公共施設、その他に旧図書館等多種にわたり、プレイルーム面積も 25 m²から 100 m²以上の施設まで幅広い。従って、プレイルーム面積と床仕上げの全体像を把握するには適した資料であると考えている。

参考文献

- 1) 西本雅人・河合慎介・今井正次：遊びの行為からみた保育室におけるコーナーの利用特性，日本建築学会計画論文集，第 78 巻，第 688 号，pp. 1257-1264，2013. 6
- 2) 石村芳美・宮本文人：幼稚園の保育室における自由遊びと家具遊具配置計画，日本建築学会大会学術講演梗概集 2012（建築計画），pp. 563-564，2012. 9
- 3) 山田恵美・佐藤将之・山田あすか：自由遊びにおける園児の活動規模と遊びの種類およびコーナーの型に関する研究，日本建築学会計画系論文集，第 74 巻，第 637 号，pp. 549-557，2009. 3
- 4) 汐見稔幸・村上博文・松永静子・保坂佳一・志村洋子：乳児保育室の空間構成と”子どもの行為及び保育者の意識”の変容，保育学研究，第 50 巻，第 3 号，pp. 298-308，2012. 12
- 5) 細川俊子・積田洋・青木健三：異年齢保育における保育室の空間構成と室内遊びでの異年齢交流の実態の研究，日本建築学会計画系論文集，第 73 巻，第 634 号，pp. 2565-2572，2008. 12

* 山口大学大学院理工学研究科 博士前期課程
** 山口大学大学院理工学研究科 博士後期課程
*** 筑波大学システム情報系 助教・博士（工学）
****山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

* Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.
** Doctoral Course, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., M. Eng.
*** Assistant Prof., Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba., Dr.Eng.
**** Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr.Eng.